伊藤君子グループ

伊藤君子（Vo）香川県小豆島生まれ。4歳のとき、ラジオから流れる美空ひばりの歌声に魅せられ、歌手を目指す。

1982年、ジャズアルバム「ハーバーランド」でレコードデビュー。その後、ニューヨークのジャズクラブの出演、日野皓正グループをはじめとする日本の本格派ジャズグルーとの共演でジャズの実力を磨き、国内外で彼女の歌唱力は高く評価されていった。

1989年、日米同時発売されたアルバム「フォロー・ー」は米ラジオ＆レコード誌のコンテンポラリー・ジャズ部門の16位にチャートインするという日本人女性ヴォーカルリストとして初の快挙を成し遂げた。

ジャズ・ヴォーカリストとして確固たる存在となった伊藤君子は、以降アルバム、コンサート、海外のジャズフェスティバル、テレビ、ラジオ番組、ライブハウスと、幅広い活動を続けている。

2000年にリリースされたニューヨークのスタジオ・レコーディング・アルバム「KIMIKO」はプロデューサーに小曽根真を迎え、ヴォーカリストとしての伊藤君子の魅力を存分に引き出したものとなった。このアルバムは、2000年度スイングジャーナル誌ジャズディスク大賞ヴォーカル賞を受賞した。

彼女の歌に向かう真摯な姿勢はいつも変わらない。

彼女は、その肉体と精神のすべてをぶつけて歌っている。

田中信正（P）1968年、横浜市　生まれ。4歳より電子オルガンを始め、16歳でピアノに転向。国立音楽大学作曲科中退後、ジャズピアノを藤井英一、橋本一子、佐藤允彦、各氏に師事。

1993年横濱ジャズプロムナード・第一回コンペティションに、ユニットBO－J Oにて出場。グランプリとベストプレイヤー賞（個人賞）を受賞する。

2000年、初リーダー作「田中信正KARTELL・ODD　OR　EVEN」発売。

森山威男（97～）井上淑彦（98～）廣木光一（98～）美山夏蓉子（2000 ～）加藤真一（2001～）伊藤君子（2001～）らのグループにレギュラー参加。

若手「イチ押しジャズピアニスト」として注目を集めている

高瀬裕（B）

1970年生まれ、栃木県出身。(生まれは広島)

15才頃より当時のバンドブームでハードロックバンドでエレクトリックベースを弾き始める。

大学在学中にジャズに目覚め、鈴木 淳氏に師事。音楽理論を杜 哲也氏に師事。

在学中は、ジャズ研などには所属せず、NARU(お茶の水のライブハウス)アルバイトをしながら先輩プレイヤーの演奏を聴き、「プロになろう！」と決心。この頃、毎日のように一流プレイヤーの演奏を生で聴いていたことがその後に大きな影響を与えているように思う。卒業後、プロとしての活動を始める。

いわゆるジャズをはじめ、コンテンポラリーなものやボサノバ、サンバなども好み、守備範囲は結構広い。

現在、参加しているバンドは数多く、都内近郊のライブハウスなどで、素晴らしいミュージシャン達と活動中。

演奏のスタイルは、派手ではないがグルーブを大事にし、ベースらしい(?)シンプルなプレイを目指している。

尊敬するミュージシャンは沢山いるが、ベースでは、CharieHaden,Dave

Holland,Ray Brown,など。

安藤正則（Ds）1972年、兵庫県神戸市生まれ。

ヴァイオリニストであった祖父の影響を受け幼い頃から音楽に親しむ。
11 才のときにバンドを結成し、ドラムとヴォーカルを担当するなど、早熟ぶりをみせた。
中学、高校とバンド活動を続け、ロック、フュージョンに傾倒していく。
高校卒業後、メイト音楽学院に入学。それまで独学で習得してきたドラムを佐藤節雄氏に師事しジャズの洗礼を受け、20 歳の時吉岡秀晃トリオでプロデビュー。その後、大森明、井上祐一、岡淳、高橋知己、向井滋春、山口真文、HARU、中牟礼貞則、廣木光一、関恭史、AAS、infinite circle など数々のグループに参加。
’00、横浜ジャズプロムナード、コンペティションに、立花秀輝カルテットのメン バーとして出場。横浜市長賞を含む、過去最多の4部門を獲得した。
’01、同上のバンド名を AAS（アアス）と改め、同年3月に、ファースト CD『幻夜（げんや）』を発表、好評を博す。
近年は、ジャズのみならず、自らの音楽的ルーツでもあるロック、ポップス、またラテンなど様々な要素の音楽的要求にも的確に応えられる若手有望の人材として、将来最も期待されるドラマーの1人として頭角をあらわしてきた。